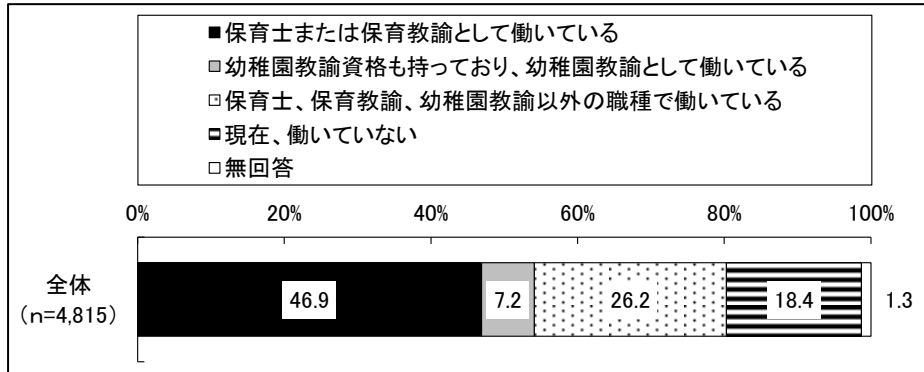


福岡県保育士再就職意向調査結果の概要について

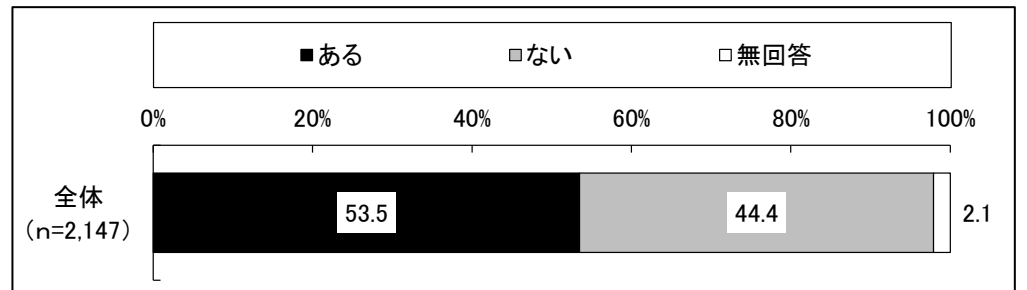
- 1 調査対象 県が保有する保育士登録情報のうち住所地が県内（指定都市及び中核市を除く）のものから20,000人を無作為抽出
- 2 調査方法 郵送配布—郵送回収
- 3 回収数 4,815人（24.1%）
- 4 調査期間 平成29年6月23日（金）～7月7日（金）
- 5 主な回答結果

① 現在の就業状況



現在の就業状況では、「保育士または保育教諭として働いている」(46.9%)が最も多く、次いで「保育士、保育教諭、幼稚園教諭以外の職種で働いている」(26.2%)、「現在、働いていない」(18.4%)となっている。

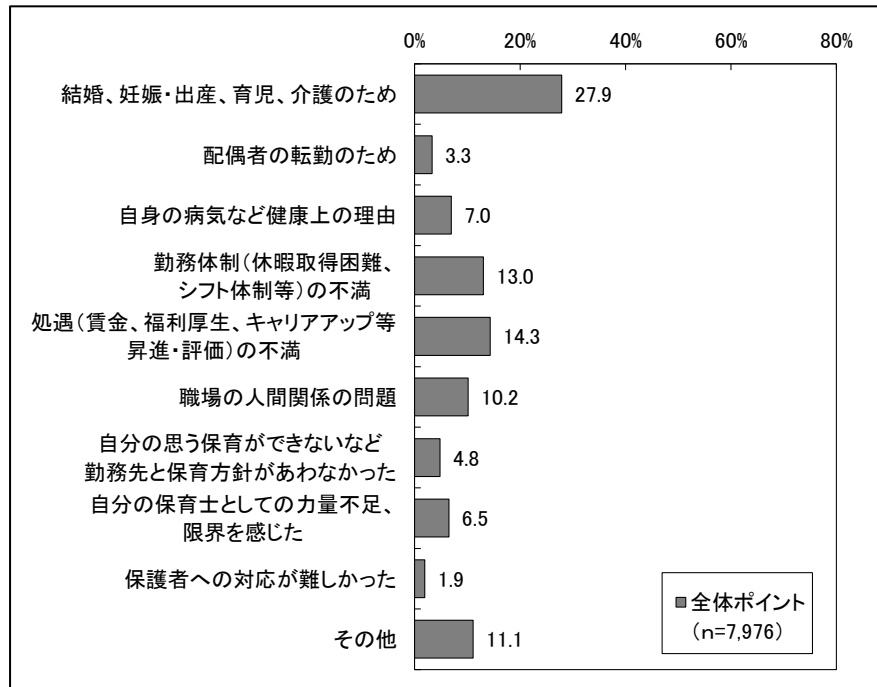
② 保育士としての再就職意向



現在、保育士、保育教諭、幼稚園教諭として働いていない方のうち、保育士としての就労意思が「ある」方は53.5%、「ない」方は44.4%となっている。

「ある」と回答した方を年齢別にみると、30代前半(22.6%)が最も多く、次いで20歳代後半(14.6%)、30歳代後半(14.2%)と続いている。

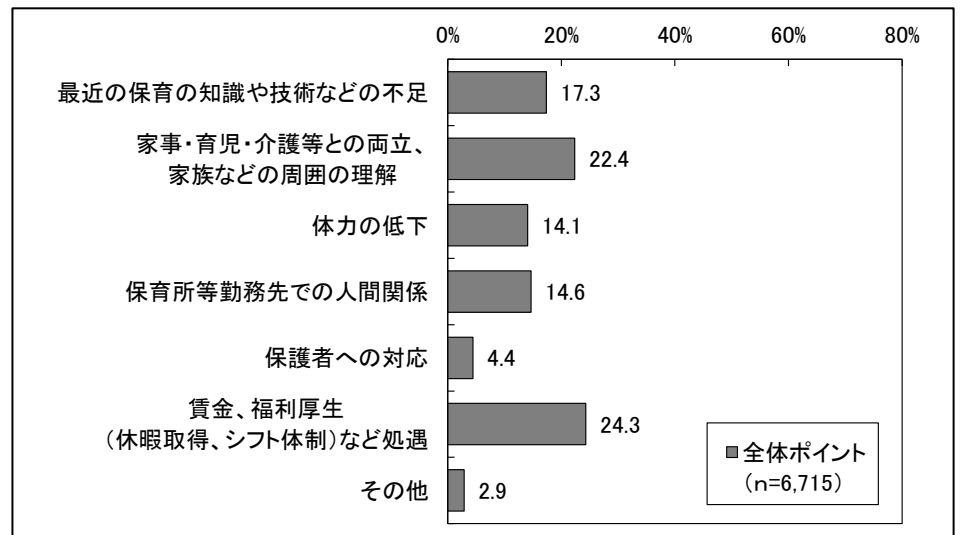
③ 保育士を離職した理由



保育士として働いた経験がある方に、保育士を辞めた理由についてたずねたところ、「結婚、妊娠・出産、育児、介護のため」(27.9%)が最も多く、次いで「処遇(賃金、福利厚生、キャリアアップ等昇進・評価)の不满」(14.3%)、「勤務体制(休暇取得困難、シフト体制等)の不满」(13.0%)となっている。

年齢別にみると、20歳代前半では「職場の人間関係」(26.7%)が最も多く、このほかでは「結婚、妊娠・出産、育児、介護」が最も多い。

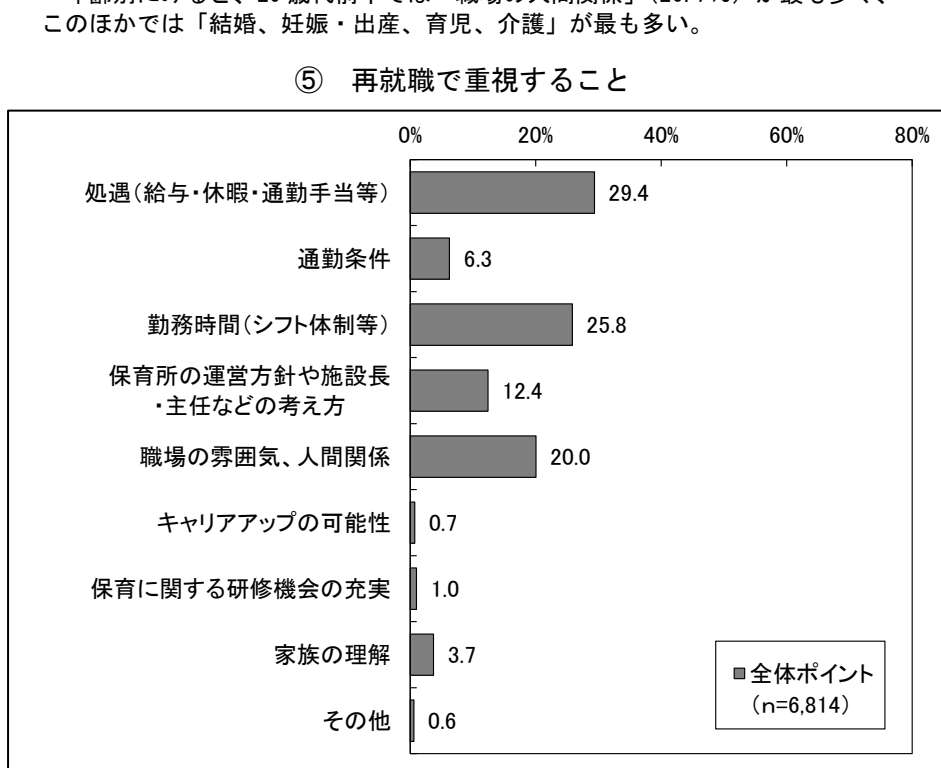
④ 再就職への不安



今後保育士として働くつもりがある方に、再就職への不安についてたずねたところ、「賃金、福利厚生(休暇取得、シフト体制)など処遇」(24.3%)が最も多く、次いで「家事・育児・介護等との両立、家族などの周囲の理解」(22.4%)、「最近の保育の知識や技術などの不足」(17.3%)となっている。

年齢別にみると、30歳代から40歳代前半では「家事・育児・介護等との両立、家族などの周囲の理解」が最も多く、50歳以上では「体力の低下」、このほかでは「賃金、福利厚生(休暇取得、シフト体制)など処遇」が最も多くなっている。

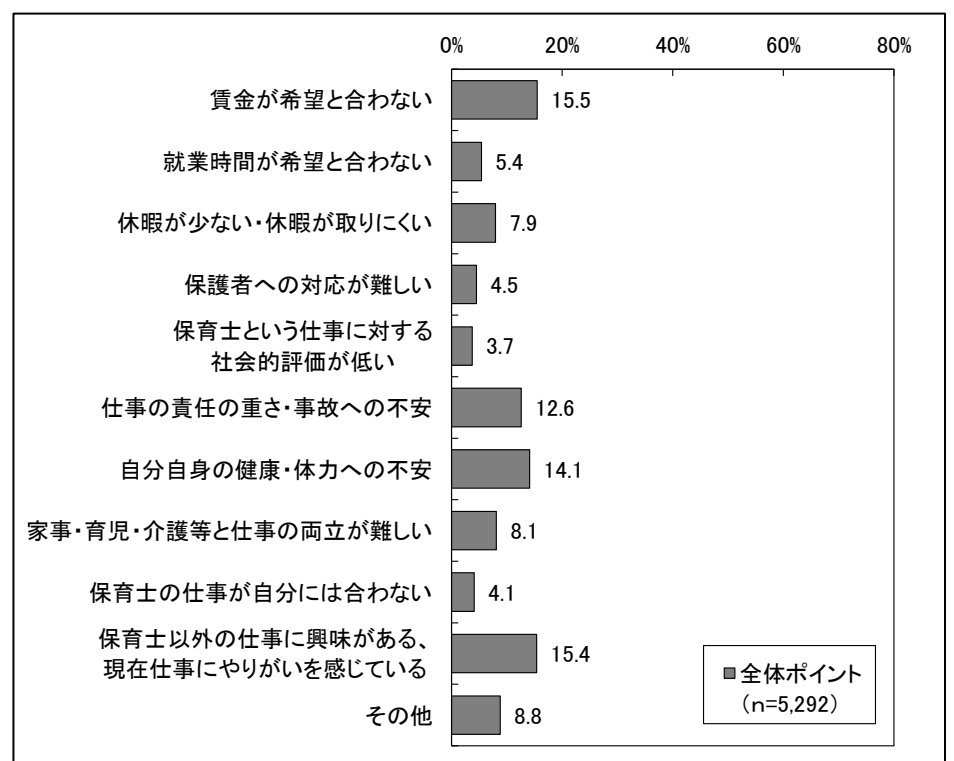
⑤ 再就職で重視すること



今後保育士として働くつもりがある方に、再就職で重視することについてたずねたところ、「処遇(給与・休暇・通勤手当等)」(29.4%)が最も多く、次いで「勤務時間(シフト体制等)」(25.8%)、「職場の雰囲気、人間関係」(20.0%)となっている。

年齢別にみると、30歳代後半と55歳以上では「勤務時間(シフト体制等)」が最も多く、このほかでは、「処遇(給与・休暇・通勤手当等)」が最も多い。

⑥ 保育士として働こうと思わない理由



保育士として働くつもりがない方に、保育士として働こうと思わない理由についてたずねたところ、「賃金が希望と合わない」(15.5%)が最も多く、次いで「保育士以外の仕事に興味がある、現在仕事にやりがいを感じている」(15.4%)、「自分自身の健康・体力への不安」(14.1%)、「仕事の責任の重さ・事故への不安」(12.6%)となっている。

年齢別にみると、20歳代前半と40歳代前半では「保育士以外の仕事に興味がある、現在仕事にやりがいを感じている」が最も多く、20歳代後半から30歳代では「賃金が希望と合わない」、45歳以上では「自分自身の健康・体力への不安」が最も多い。

※③～⑥の質問は1位から3位までの順位回答。1位に3ポイント、2位に2ポイント、3位に1ポイントを乗じ、集計を行った。